

# 上位の人気は安定傾向

～2003年「好きなタレント」調査から～

世論調査研究員 東 雅江



「好きなタレント調査」は、視聴者の好みを知り、各種番組等の出演者選びの参考にするために1978年から毎年郵送法で行っています。全国7歳以上の国民を対象に、好きなタレントの名前を男女3名ずつ自由に書いてもらう質問形式です。2003年調査（9月19日～10月13日）の結果を報告します。



## 1. 男女ベスト10の概況

### 男性上位3人は長期安定傾向

男性タレントで好感率（有効回答のうち、そのタレントの名前をあげた人の割合）が最も高いのは、6年連続で明石家さんまでした（表1）。明石家さんまさんは84年に4位でベスト20に初登場し、翌85年から19年間1位か2位という安定した人気を保っています。2位はビートたけしさん、3位は所ジョージさんで、この上位3人は4年連続同順位です。前回と比べると、男性タレントは4人が新しくベスト10に入っています。そのうち8位の島田紳助さんと9位の妻夫木聰さんは初めてのベスト10入りですが、5位の織田裕二さんは過去6回、西田敏行さんは過去17回ベスト10に登場しています。

### 女性は半数が入れ代わる

女性タレントは、1位久本雅美さん、2位松嶋菜々子さんで、1位と2位はこの3年間変わっていません。好感率でみると、前年は1位と2位の差はほとんどありませんでしたが、今回は久本雅美さんの好感率が前年より上がり、松嶋菜々子さんが前年より下がったため、二人の差が開きました。

今回のベスト10は前回と比べて半数が入れ代わりました。3位の黒木

表1 好きなタレント ベスト10

順位	男性タレント			女性タレント			順位	%
	2003年	2002年	順位	2003年	2002年	順位		
1	明石家さんま	18.1	1	14.9	1	久本雅美	16.1	1
2	ビートたけし	9.8	2	6.6	2	松嶋菜々子	8.7	2
3	所ジョージ	6.7	3	5.7	3	黒木瞳	6.3	21
4	福山雅治	6.6	7	4.5	4	矢田亜希子	5.3	14
5	織田裕二	5.8	34	1.8	5	和田アキ子	4.6	8
6	タモリ（森田一義）	5.5	5	4.9	6	吉永小百合	4.4	5
7	SMAP	5.2	8	4.2	7	上沼恵美子	4.3	3
8	島田紳助	5.0	32	1.8	8	磯野貴理子	4.0	42
9	妻夫木聰	3.7	13	2.9	9	竹下景子	3.7	24
10	木村拓哉	3.6	10	3.5	10	山田花子	3.6	46
10	西田敏行	3.6	16	2.6				

注) 順位は実数による。

瞳さん、4位の矢田亜希子さん、8位の磯野貴理子さん、10位の山田花子さんは、10位以内に入ったのは初めてですが、9位の竹下景子さんは「好きなタレント」調査を初めて行った78年に1位、79年、80年にもベスト10に顔を出し、今回は23年ぶりにベスト10に入りました。



## 2. 男女年層別でのベスト5

性別や年齢によってタレントの好みがどう違うのかをみるために、表2、3に男女年層別での好きなタレント上位5人を示しました。明石家さんまさんと久本雅美さんは、女7～19歳を除く全ての層で上位3位以内

に入っていて、二人とも幅広い年齢層に好感をもたれていることがわかります。一方ビートたけしさんは、男性に、より好感を持たれるタイプであることがわかります。

今回3位の黒木瞳さんは、30代から50代の男女でベスト5にあがっていて、この年代の男性、女性両方に好感をもたれています。

SMAPは7～19歳の男女、30代・40代の女性でベスト5に入っています。30代、40代の女性はちょうど7～19歳の母親にあたる年代です。親子で一緒に好きなSMAPの出演番組を見たり、共通の話題となっていたりということもあります。

表2 男女年層別にみた  
男性タレントベスト5

	男	%	女	%
7~19歳	ビートたけし	15	SMAP	18
	タモリ(森田一義)	14	香取慎吾	11
	明石家さんま	12	妻夫木聰	9*
	SMAP	11	V6	9*
	織田裕二	9	福山雅治	8
20代	明石家さんま	21	妻夫木聰	16
	ビートたけし	20	明石家さんま	10
	ダウンタウン	12	玉木宏	9
	所ジョージ	8	オダギリジョー	9*
	岡村隆史	7*	香取慎吾	9*
30代	オダギリジョー	7*	福山雅治	9*
	島田紳助	7*		
	明石家さんま	25	福山雅治	28
	ビートたけし	20	SMAP	13
	福山雅治	16	明石家さんま	12
40代	織田裕二	11	織田裕二	10
	所ジョージ	10	坂口憲二	8
	明石家さんま	23	明石家さんま	25
	ビートたけし	17	福山雅治	10
	所ジョージ	12	タモリ(森田一義)	10
50代	タモリ(森田一義)	12	SMAP	8
	島田紳助	9	織田裕二	8
	明石家さんま	25	明石家さんま	23
	ビートたけし	17	織田裕二	8
	所ジョージ	11	島田紳助	8
60歳以上	北島三郎	8*	所ジョージ	7*
	タモリ(森田一義)	8*	ビートたけし	7*
	渡瀬恒彦	7*		
	明石家さんま	16	明石家さんま	17
	ビートたけし	11	藤田まこと	9
60歳以上	島田紳助	8	冰川きよし	8
	高橋英樹	8	高橋英樹	8
	北島三郎	7	里見浩太朗	7

\*は同数、同順位

太字は幅広い層に好かれているタレント、赤字で緑網掛けは特定の層により好かれているタレントの例

表中の赤網掛けはこの3年で50位以内に初登場

表3 男女年層別にみた  
女性タレントベスト5

	男	%	女	%
7~19歳	久本雅美	19	浜崎あゆみ	15
	矢田亜希子	13	松浦亜弥	13
	上戸彩	11	上戸彩	12*
	優香	9	モーニング娘。	12*
	モーニング娘。	8	矢田亜希子	11
20代	長谷川京子	19	久本雅美	21
	久本雅美	16	矢田亜希子	15
	松鶴菜々子	12	松鶴菜々子	13
	仲間由紀恵	11	深津絵里	10
	広末涼子	8	YOU	9
30代	松鶴菜々子	16	久本雅美	24
	久本雅美	13	松鶴菜々子	14
	矢田亜希子	11	矢田亜希子	9
	飯島直子	7*	藤原紀香	8
	黒木瞳	7*	黒木瞳	7
40代	久本雅美	18	久本雅美	27
	黒木瞳	13	松鶴菜々子	16
	松鶴菜々子	11	黒木瞳	12
	仲間由紀恵	7*	上沼恵美子	7
	矢田亜希子	7*	和田アキ子	7
50代	優香	7*	久本雅美	20
	久本雅美	11	吉永小百合	11
	松鶴菜々子	10	黒木瞳	9
	吉永小百合	8	上沼恵美子	6*
	黒木瞳	6*	松鶴菜々子	6*
60歳以上	久本雅美	13	久本雅美	10
	上沼恵美子	9	竹下景子	10
	竹下景子	8	黒柳徹子	9
	和田アキ子	8	吉永小百合	9
	泉ピン子	6*	中村玉緒	7
	中村玉緒	6*		

\*は同数、同順位

太字は幅広い層に好かれているタレント、赤字で緑網掛けは特定の層により好かれているタレントの例

表中の赤網掛けはこの3年で50位以内に初登場

表4 ベスト50初登場

順位	男性タレント	全体(%)
19	渡瀬恒彦	2.6
26	コロッケ	2.0
30	水谷豊	1.7
34	玉木宏	1.4
35	市川新之助	1.4
35	テツ&トモ	1.4
42	草彅剛	1.2
45	桂三枝	1.2
48	堤真一	1.2
順位	女性タレント	全体(%)
11	仲間由紀恵	3.4
13	長谷川京子	3.2
24	深津絵里	2.4
27	水野真紀	2.3
31	小池栄子	2.2
36	オセロ	1.7
36	菊川怜	1.7
36	深田恭子	1.7
36	ユンソナ	1.7
41	岸恵子	1.6
44	木村佳乃	1.5
44	YOU	1.5

年の流行語大賞ともなった「なんでだろ～」のお笑いタレントのテツ&トモ、民放の情報番組の司会もしているオセロなどが50位内に入りました。水谷豊さんは1979年調査での1位です。当時は10代から20代の男女に特に好かれていましたが、今回は女50代以上に特に好かれています。

### 3. 50位以内に初登場した人からみた特徴

最後にこの3年のうちで新たに50位以内となったタレントを表4で示しました。調査結果にはサンプリング誤差が含まれるため、1%以下の差による順位付けにあまり意味はありませんが、50位をひとつの目安として、それ以内を一応人気があるタレントとして考えてみました。

概観するとこの1年のドラマに出演したタレントが多くあげられています。NHKのドラマでみるだけでも、朝の連続テレビ小

説『こころ』のヒロインの相手役の玉木宏さん、祖母役の岸恵子さん、そして小池栄子さん。大河ドラマ『武蔵MUSASHI』の出演者では主役の市川新之助さん、渡瀬恒彦さん、堤真一、仲間由紀恵さんが今回50位に新たに入っています。

また、玉木宏さん、仲間由紀恵さん、長谷川京子さん、深津絵里さん、YOUは20代の男女でベスト5に、渡瀬恒彦さんは女50代で5位など、特定の層では高位に入っている人もいます（表2、3の赤網掛け参照）。

このほか、新しい顔としては2003

1978年調査の女性タレント1位である竹下景子さんが9位、1979年調査の男性1位である水谷豊さんが再び50位以内に登場したのに象徴されるように、今回は比較的芸歴の長いベテランが上位に上がっています。安定した人気を保つトップのタレントの次に、特定の層での人気を守るタレントが上位に上がったというのが今回の結果であるといえるでしょう。

詳しく述べては『放送研究と調査』2月号をご覧ください。■